

# NO!リニア

No. 6 7

2013年 8月23日

JR東海労働組合

リニア反対プロジェクト

## リニア建設費（東京～大阪）3兆円 赤字補填のため3分の1は国負担… 1988年当時のリニア計画 その1

『関西経済連合会刊』（1989年1月）に葛西会長（当時・常務取締役・リニア対策本部長）が1988年（昭和63年）10月31日に行った講演録が、ネットで発信されています。講演録の内容は、現在会社が主張している内容と大きな隔たりがあります。

以下、その内容の比較を示します。

内 容	1988年（昭和63年）	現 在
建設費（東京～大阪）	3兆円	9兆300億円 （実験線と中間駅を除く）
建設費の負担	国が3分の1（1兆円） JR東海が3分の2	全額JR東海負担
収支見通し	30年で1兆2000億円の赤字 （リニア1兆3000億黒字、東 海道新幹線2兆5000億赤字）	名古屋開業直後5%増、その 後10年で10%増、大阪開業で 15%増、長期債務を5兆円に 抑える ※黒字と判断できる
計画・推進の主体	ナショナル・プロジェクト	JR東海（全幹法の活用）
開業予定	2000～2001年	名古屋2027年、大阪2045年
東海道新幹線の本数	10本／h	15本／h（最大）

このように、1988年当時の計画は、現在と比較すると雲泥の差です。見方によっては、計画の杜撰さが理解できるのではないのでしょうか。

これらの検証は、本紙次号以降、掲載していきます。